

あ と が き

本研究では、重度・重複障害児のための「応答する環境」の開発を進めてきた。研究を立ち上げた当初は、障害の重い子どもの遊びを拡大する教材教具、コミュニケーションを含めた自己表現を促進する教材教具、環境制御を促進する教材教具、社会参加を促進する教材教具という漠然としたイメージの中で、障害の重い子どもの学習活動の中で利用できる教材教具という＜もの＞を開発し、作製することを中心に考えてきた。しかし、この2年間のプロジェクト研究の間に、実際に障害の重い子どもたちの生活に係わる＜ひと＞の相互性の重要性が浮き彫りになってきた。

本報告書で紹介された、＜もの＞としての教材教具は、＜ひと＞とのかかわりのなかで使われなければ、ただの＜もの＞でしかなく、障害の重い子どもたちの身体の一部となって働く応答性のある＜もの＞になるためには、多くの子どもたちとその子どもたちに係わる多くの＜ひと＞の相互作用が必要不可欠である。

また、子どもの発達や成長に応じて、＜もの＞の応答性の在り方も＜ひと＞の相互性の在り方も変化していくだろう。しかし、いつも基盤にあるのは＜ひと＞として自分が外界に影響を持ちうる存在であること、自分がわかりたいと思う存在であることである。

冒頭に触れた「学習された無力感」は、障害の重い子どもだけの問題ではないことは、社会一般において明らかである。話し言葉でコミュニケーションが一見成り立つような子どもたちの中にも、コミュニケーションを求めている子どもたちがいる。また、私自身も外界に働きかけようとする前にためらいを感じることもある。

そういう我々にとって、本プロジェクト研究自体が「応答する環境」そのものであったし、今後もこの「応答する環境」をさらに広げ、深めたいと思う。

本研究で2年間に渡り、ご協力いただいた研究協力者・研究協力機関の皆様には、心より厚くお礼を申し上げます。月並みな表現ではあるが、見通しのきかない闇の中で、時には厳しく、時には思いやりのある言葉を頂いた。

また、できれば、この報告書から多くの方からの応答をもとに、新たな「応答する環境」をより多くの方と築いていきたいと願う。

本報告書の写真の掲載につきましては、各事例の保護者並びに所属長のご了解を得ております。ご協力に記して感謝申し上げます。

また、本研究の遂行に関しまして、種々のご理解・ご協力を得ました研究協力機関の皆様にも心より感謝申し上げます。

平成14年3月

重複障害教育研究部長

後上 鐵夫

平成12・13年度プロジェクト研究教材教具の試作研究報告書
重度・重複障害児のための『応答する環境』の開発についての実際研究

平成14年3月 発行

研究代表者 後上 鐵夫

編集兼発行者 独立行政法人 国立特殊教育総合研究所

〒239-0841 神奈川県横須賀市野比5丁目1番1号

電話 0468-48-4121

FAX 0468-49-5563

URL <http://www.nise.go.jp/>
